

北極域実践コミュニティ

# VOICES from the ARCTIC

Vol.4 2022.1.21

ArCS II 国際政治課題 北極域実践コミュニティ事務局

## カナダは、先住民族の女性と少女に対する暴力に対処するため、「変革」をすると約束



「フェデラル・パスウェイ」報告書は、先住民の女性やジェンダー多様性のある人々に不等に向けられた暴力の惨状を終わらせるために、ファースト・ネーション、メティス、イヌイットの人々の意見を取り入れながら、全体的なアプローチの採用を求めている。この計画には、先住民の言語、文化、インフラ、健康、警察への支出を増やすという政府の約束が含まれる。オタワは、文化的に適切なガバナンスを確保するために、コミュニティに社会サービスに対する管理権限を与えることになる。

記事参照：Canada promises ‘transformative change’ to address violence towards Indigenous women and girls – Eye on the Arctic (rcinet.ca) (2021.6.3/ARCTIC TODAY)

→The rig for the Goliat oil field in the Barents Sea. (Thomas Nilsen / The Independent Barents Observer)

## ノルウェー、石油会社にバレンツ海の70か所の探鉱区を提供



水曜日の発表によると、石油会社はノルウェーの大陸棚にある84か所の鉱区に掘削ライセンスを申請するように要請されている。この84鉱区のうち、70鉱区はノルウェーの最北端の海域であるバレンツ海にある。石油・エネルギー省のティナ・ブル大臣は、2021年のライセンスラウンドを発表した際に、「探査鉱区の発表と割り当ては、ノルウェーの大陸棚の活動レベルを維持するために重要である」と述べた。記事参照：Norway offers oil firms 70 Barents Sea exploration blocks - ArcticToday (2021.6.9/ARCTIC TODAY)



## アラスカ南西部は妊産婦死亡率が最も高い



アラスカ・マターナル・チャイルド・デス評価委員会は、最近、アラスカで10年間に起こった16件の妊産婦死亡の調査結果を発表した。

死因の半数以上がアラスカ南西部で発生し、先住民の母親が最も多くを占めている。「アメリカの他の地域と同様、人種による格差が見られる。アラスカでは、特に先住民族の女性に格差が見られる」と、同委員会の委員長であるヴァネッサ・ベリギンは述べている。

記事参照：Southwest Alaska ranks highest for maternal mortality - Alaska Public Media (2021.6.10/Alaska Public Media)

## セイウチの保護が見直されることに



連邦控訴裁判所は先週、トランプ政権下の米国魚類野生生物局がセイウチを絶滅危惧種のリストから除外した方法に誤りがあると判断した。北極海の海氷が失われたことで、アラスカの3種の海洋哺乳類（ホッキョクグマ、ワモンアザラシ、マダラアザラシ）が絶滅危惧種保護法によって保護されることとなったが、今度は太平洋セイウチがそのグループに加わるだろう。

記事参照：Pacific walrus protections are poised to get a fresh look - ArcticToday (2021.6.11/ARCTIC TODAY)

## 温暖化が進むと、アラスカの北極圏保護区はカリブーの分娩にとってさらに重要になる可能性がある



北極圏が温暖化を続け、雪解けや植物の成長が進むにつれて、夏にはこの地域がカリブーの群れによってさらに頻繁に利用されるようになることが、アラスカとカナダの科学者による新しい研究でわかった。カリブーの群れは米国とカナダの国境にまたがっており、保護区での石油開発をめぐる数十年にわたる論争の中心となってきた。一方、ユーコンの生息環境のクオリティは低下することが明らかになった。

記事参照：Continued warming could make Alaska's Arctic refuge even more crucial for calving caribou - ArcticToday (2021.6.16/ARCTIC TODAY)



↑ Caribou from the Porcupine Herd graze on the Arctic National Wildlife Refuge's coastal plain with the Brooks Range in the distance. (U.S. Fish and Wildlife Service)

## COVID-19の規制が解除され、ノースウェスト・アーキティック郡はすべての村にVPSOを設置することを改めて要請



ノースウェスト・アーキティック郡でCOVID-19規制が解除されたことを受けて、地元の公共安全当局は、より多くのコミュニティに Village Public Safety Officer (VPSO) を設置するよう働きかけを続けている。昨年、責任者に就任したアウチャ・カメロフ氏は、アラスカの多くの村落では公安の欠如が問題であり、北西北極圏にVPSOを配置することが彼女の最優先事項であると述べた。

記事参照：As COVID-19 restrictions lift, Northwest Arctic Borough renews push for VPSOs in every village - Alaska Public Media (2021.6.10/Alaska Public Media)

## IMOが北極圏の重油使用禁止を採択



ロンドン発-国際海事機関は6月12日、北極圏での重油の使用禁止を採択したが、環境保護団体は、規制には抜け穴があり、多くの船舶が十分な規制を受けずに航行を続けることになると指摘した。

記事参照：IMO adopts an Arctic heavy fuel oil ban - ArcticToday (2021.6.17/ARCTIC TODAY)

## 北極科学大臣会合報告書、気候に関する国際協力とコミュニティ観測の重要性を強調



第3回北極科学大臣会合の報告書が水曜日に発表され、増大する気候変動問題に対する国際協力とコミュニティ観測の継続的な必要性が強調された。日本政府関係者は、「北方に関する国際社会の知識向上に貢献したい」と述べ、また、「今年初めに発表された新しい調査用砕氷船が重要な役割を果たすだろう」と述べた。記事参照：Arctic Science Ministerial report stresses importance of int'l cooperation & community observations on climate – Eye on the Arctic (rcinet.ca) (2021.6.17/EYE ON THE ARCTIC)

## ロシアは北極経済評議会の議長国として積極的な活動を計画中



ロシアは、北極評議会議長国に就任した際に、北極圏でのビジネスチャンスや貿易、投資を促進するための独立した組織である北極経済評議会の議長にも就いた。過去のロシア議長国についてよく知る人々は、北極圏の経済開発を重視してきたロシアがこれまでの議長国よりも北極経済評議会を活用して自国の利益を促進するとみている。

記事参照：Russia is planning an active Arctic Economic Council chairmanship - ArcticToday (2021.6.18/ARCTIC TODAY)

